

2025年度表彰受賞者の紹介



2026年6月9日 第16期定時社員総会での記念撮影（経団連会館）

2025年度に各種委員会やプロジェクト等の活動において、次頁の皆様が受賞されました。それぞれの受賞理由と受賞者コメントを掲載いたします。

部門	奨励賞 (個人)	奨励賞 (連名)	功績賞 (個人)	功績賞 (連名)	功績賞 (グループ)	合計
戦略企画部				3		3名
医事コンピュータ部会	1		1		6	8名
医療システム部会	2		3	3	5	13名
標準化推進部会	2					2名
保健福祉システム部会				3		3名
事業推進部				2		2名
総務会						
合計	5名		4名	11名	11名	31名

功績賞	戦略企画部	絵本製作TF リーダー (キヤノンメディカルシステムズ(株)) き ど す み こ 木戸 須美子		
絵本「ぐるぐるデータのおくりもの」の プロモーションによるJAHISの知名度および プレゼンスの向上		絵本製作TF 委員 (日本電気(株)) お や ま み さ こ 小山 美佐子		
絵本製作TF 委員 (日本電気(株)) お や ま み さ こ 小山 美佐子		絵本製作TF 委員 (コニカミノルタ(株)) お が わ ゆ う だ い 小川 雄代		

受賞理由：

昨年度制作した絵本「ぐるぐるデータのおくりもの」のプロモーションを率先して推進し、JAHISが掲げる『データ循環型社会』の理念を広く社会に浸透させることに貢献されました。これにより、JAHISの知名度およびプレゼンスの向上に大きく寄与した。

具体的には下記のプロモーション活動を展開し、絵本は第3刷まで重刷を達成。2,000冊を超える絵本を関係者および関係機関に届けることができた。

- ・JAHISウェブサイト内に申込ページを開設し、キャラクター「メディたん」を効果的に配置することで、アクセス数の増加と親しみやすさを実現
- ・チラシ配布を通じてウェブサイトへの誘導を実現
- ・医療情報学会や日本薬剤師会などの関係団体主催のイベントや国際モダンホスピタルショウなどにおいて絵本紹介・配付を通じて、JAHIS理念の周知活動を実施

タスクフォースメンバーのコメント：

この度は、JAHIS第16期定時社員総会において、木戸・小川・小山の3名連名にて功績賞を賜り、誠にありがとうございます。

今回、表彰をいただけたのは、TFメンバー並びに関係者の多大なるご協力があったからこそであり、深く感謝申し上げます。

本絵本は、JAHIS創立30周年記念事業の一環として、「データ循環型社会」の理念を、子どもから大人まで幅広い方々に親しみやすく伝えることを目的に制作いたしました。制作・推進にあたっては、木戸が全体統括を担い、小山がプロモーションのサブリーダーとして発信活動を推進し、小川がチラシやホームページなどの作成を担当いたしました。

プロモーション活動においては、ホームページを活用した配付を中心に、多くのイベントでチラシを配付いたしました。中でも、ホスピタルショウでは、多くの方に直接手に取っていただき、関心やご感想を寄せていただく機会にも恵まれました。2,000冊を超える絵本を日本全国と海外の医療機関様にもお届けできました。絵本という親しみやすい媒体を通じて、JAHISの理念や活動をより広く知っていただくきっかけをつくることができたこ

とを、3名一同、大変うれしく感じております。

今回の受賞を励みに、今後もJAHISの活動発信に努めるとともに、会員の皆様とともに医療情報分野の発展に貢献できるよう、3名一同、一層精進してまいります。引き続きご指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

奨励賞 医事コンピュータ部会	歯科システム委員会 歯科電子レセ専門委員会 副委員長 兼 専門委員長 (株ミック)	
歯科電子レセプト請求及び 令和8年度診療報酬改定への貢献	わたなべ ひろあき 渡辺 浩章	

受賞理由：

1. 社会保険診療報酬支払基金・国民健康保険中央会との基本マスター／電子レセプト定例会に積極的に参加し、歯科ベンダの立場として意見を発信し、随時状況報告を会員に行っている。

また、令和7年度診療報酬改定DX個別テーマミーティングについても、歯科システム委員会幹部で事前打ち合わせを行い、意見をとりまとめて歯科ベンダーの立場として意見を発信した。

2. 基本マスターや記録条件仕様、電子レセプトの記録方法に関する各種疑義のとりまとめ及び関係機関への疑義照会を中心となっていた。特記事項として、令和7年12月に「3次元プリント有床義歯」が新規保険適用となったがマスタ部分に誤りを発見し速やかな疑義照会おこない回答について会員へのスムーズな情報発信を行った。

また、令和8年診療報酬改定においても各種疑義のとりまとめシートを作成し厚生労働省・社会保険診療報酬支払基金・国民健康保険中央会への疑義照会シートを提出し委員会の中で進捗及び現状について情報共有を実施した。

渡辺 浩章さんのコメント：

このたびは奨励賞を賜り、誠にありがとうございます。

振り返りますと、基本マスターや電子レセプトに関する各種会議への参加、診療報酬改定DXにおける意見集約や提言、また疑義照会の取りまとめなど、歯科ベンダの立場から業界発展の一助となるよう活動してまいりました。

特に、会員の皆様から寄せられるさまざまな課題や疑問を関係機関へ伝え、その結果を迅速に共有することを心掛けてきました。今回の受賞は、こうした活動を評価していただいたものと受け止めております。

これもひとえに委員会関係者の皆様、会員各社の皆様のご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

今後も医療DXの進展に対応しながら、会員の皆様のお役に立てる情報発信と業界への貢献に努めてまいります。

功績賞 医事コンピュータ部会	電子レセプト委員会（記載要領電子化専門委員会） 副専門委員長（サブリーダー） （富士通Japan㈱） おおすみ しょうへい 大住 昇平 
2025年度（一財）医療保険業務研究会 受託論文作成の活動完遂	

受賞理由：

1. 2025年度（一財）医療保険業務研究協会・受託事業（調査研究事業）論文「医療DX推進に向けた診療報酬請求業務の変革：現状分析と未来への展望」において、サブリーダーとして、リーダーが繁忙な状況下においても自ら率先して具体的な提案を行うなど、本調査研究を主導し完遂した。本論文は、2017年調査研究（2016年改定）を基点として、2024年改定までの12年間の診療報酬改定の変遷を追い、医療DXにおける診療報酬請求業務およびそれを支えるシステムの未来像を示し、具体的な提言をまとめたものであり、専門性が高く、約60頁に及ぶものである。
2. 令和8年度改定作業が控え、作業は短期集中が求められる中、WG開催回数は延べ14回を開催。サブリーダーとして、自身を含む多忙なメンバー間の調整を行い、WGにおける進行や議事録作成を分担するなど、活動が円滑に進むよう重要な主体的役割を果たした。
3. 生成AIを活用したレビューや校正などの新たな取組みを積極的に導入し、作成・編集作業の論理性向上と効率化を実現するとともに、専門委員会メンバーの作業負担軽減に大きく貢献した。
4. 本調査研究成果（論文）は、医療保険業務研究協会より、厚生労働省等、関係機関および一般に公開される予定であり、JAHISのプレゼンス向上の貢献はもとより、JAHIS会員が今後の診療報酬改定対応を進める上での環境整備にも大きく寄与するものである。

大住 昇平さんのコメント：

この度は、栄誉ある功績賞を賜り、心より感謝いたします。

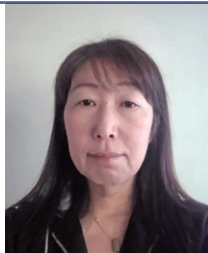
今回の受賞は、私一人の力で成し遂げられたものではなく、多くの皆様との協働の成果であり、深く御礼申し上げます。

特に、2025年度（一財）医療保険業務研究協会様との共同調査研究事業における、論文「医療DX推進に向けた診療報酬請求業務の変革：現状分析と未来への展望」では、リーダーの柴田様にご指導いただきながら、サブリーダーとして本調査研究を主導し、完遂することができました。本論文は、2017年調査研究を基点とした12年間の診療報酬改定の変遷から、医療DXにおける診療報酬請求業務およびシステムが向かうべき未来像を描き、多岐にわたる提言を約60頁に凝縮したものです。この専門性の高い内容をまとめ上げるにあたり、ワーキンググループの皆様、株式会社社会保険研究所の高橋様、井口様、そしてJAHIS事務局の前田部長の多大なるご尽力なしには、決して達成できませんでした。

また、令和8年度改定作業が目前に迫る中、延べ14回にも及ぶワーキンググループの開催においては、サブリーダーとして多忙なメンバー間の調整や、円滑な進行、議事録作成の分担などに主体的に関わらせていただきました。限られた時間の中で最大の成果を出すためのチームワークの重要性を改めて実感する機会となりました。

加えて、今回は生成AIを活用したレビューや校正といった新たな取り組みを積極的に導入いたしました。これにより、作成・編集作業の論理性向上と効率化を図るとともに、専門委員会メンバーの皆様の作業負担軽減にも貢献できたことを嬉しく思います。

この調査研究の成果が、医療保険業務研究協会様を通じて厚生労働省等の関係機関および一般に公開されることで、JAHISのプレゼンス向上だけでなく、JAHIS会員が今後、診療報酬改定対応を進める上での環境整備に大きく寄与できるものと期待しております。この度の受賞を糧とし、今後もJAHISの活動を通じて、医療情報システムのさらなる発展と医療DXの推進に貢献できるよう、一層精進してまいります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

功績賞 医事コンピュータ部会		調剤システム委員会 副委員長 (株)EMテクノロジー研究所			
薬局分野の調剤報酬改定DXに係る意見具申		さとう かなえ 佐藤 夏苗			
副委員長 (ウィーメックス(株)) なか こ とよあき 中湖 豊明		副委員長 (ウィーメックス(株)) い で しん じ 井出 真司		調剤標準化専門委員会 委員長 (三菱電機デジタルイノベーション(株)) もり や かずあき 守屋 和昭	
調剤標準化専門委員会 委員長 (東日本メディコム(株)) の も と ただし 野本 禎		委員長 (三菱電機デジタルイノベーション(株)) み や じ ま つよし 宮島 毅			

受賞理由：

- 令和7年度に開催された、薬局個別テーマミーティング等において、JAHISから、医科のような共通算定モジュールの考え方では負担軽減効果が得られない、負担が増加する可能性があるといった意見を提示。負担軽減効果を得るために必要な対策を検討するため、厚生労働省保険局からの依頼で令和7年12月から3回に亘りJAHISと意見交換を実施。意見交換会の中では、薬局固有の算定要件等を資料にまとめ、厚生労働省、日本薬剤師会を交えた意見交換を行い、薬局向けの共通算定モジュールに必要な機能とともに、適切に対策を講じる上で官民の役割分担と連携に関しても議論を行い、内容を整理した。
- 個別テーマミーティング実施後、厚生労働省から共通算定モジュール導入効果や薬局分野におけるDXの全体像に関する意見伺いがあり、調剤システム委員会幹部メンバーにて分担し、厚生労働省への回答資料を作成した。特に、共通算定モジュール機能に加えて必要となる機能や、調剤特有となる計算内容については、幹部メンバー内で役割分担を行い資料を整理した。また、厚生労働省に提出する前に調剤システム委員会幹部メンバー内で事前にレビューを行う等、苦心しながら資料をまとめ厚生労働省に意見具申を行う事ができた。

その結果、医科と調剤では共通算定モジュールに必要となる機能に違いがある事を認識頂く事ができ、当初は「薬局に係る診療報酬改定DX」と整理されていた厚生労働省の資料が「薬局分野の調剤報酬改定DX」という言葉が用いられるようになり、調剤システム委員会から提示した意見の結果を意識頂けるようになった。

- 意見交換の結果、医科と同じ仕組みではなく、「調剤行為コードのみではなく、調剤情報も共通算定モジュールに送信して調剤報酬を計算する方式」の実現可否や、それによる負担軽減効果・費用対効果については重要論点として、令和8年度の報酬改定内容も踏まえながら、薬局の共通算定モジュールの検討を引き続き進める事となり、薬局分野の調剤報酬改定DXの実現に向け、JAHISのプレゼンス向上へ大きく貢献できたと考える。

受賞コメント：

この度は、JAHIS功績賞という栄えある賞をいただき、身の引き締まる思いと同時に、大変光栄に感じております。

まずは、日頃より当委員会の活動を支え、導いてくださる関係諸兄姉に心より御礼申し上げます。

今回の受賞理由となりました「薬局分野の診療報酬改定DXに係る意見具申」は、私個人ではなく、調剤システム委員会の幹部メンバーが一丸となり、それぞれの知見と情熱を持ち寄ることで成し得たものです。この場をお借りして、共に活動いただきました全ての皆様に深く感謝いたします。

活動におきましては、厚生労働省様が推進する「診療報酬改定DX」に対し、薬局様の現場における業務運用や、我々調剤システムベンダーの開発現状を丁寧にお伝えすることに注力いたしました。単なる意見表明に留まらず、より良い仕組みづくりに向けて国と深く建設的なディスカッションを行えたことは、委員会としても非常に大きな財産となりました。

現在も医療・薬局を取り巻くDXの波は加速しております。今回の受賞を大きな糧とし、今後も調剤システム委員会一同、日本の保健医療福祉情報システムの発展、そしてJAHISの活動に一層貢献できるよう、邁進してまいります。

功績賞 医療システム部会 JAHIS技術文書25-101 「JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド (輸血編) Ver. 2.3」の改定等	患者安全ガイド専門委員会 患者安全ガイド輸血編 WGリーダー (オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス㈱) てん ま かず ひろ 天満 一宏 
---	--

受賞理由：

- リーダーシップによる技術文書の改訂
WGリーダーとしてメンバーを牽引し、2025年10月にJAHIS技術文書『JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド（輸血編）Ver. 2.3』として改版した。
- 日本輸血・細胞治療学会との連携・調整
日本輸血・細胞治療学会との調整役を担い、現場視点を取り入れたガイドの充実化と、学会との橋渡し役

として、JAHISが信頼されるパートナーとしての関係を築くことに貢献した。

3. 日本輸血・細胞治療学会学術総会での発信による相互理解

第73回日本輸血・細胞治療学会学術総会サテライトセミナー「病院情報システム」（5月30日）に登壇。医療従事者へ直接JAHISの活動を周知し、輸血医療の安全と標準化に向けた歩み寄りを促進した。

天満 一宏さんのコメント：

この度は第16期定時社員総会において功績賞をいただき、誠にありがとうございます。

長年にわたるWGメンバーの多大なご協力があったからこそその表彰であり、メンバー並びに関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

JAHIS技術文書「JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド（輸血編）」は、2015年11月の初版発行から10年が経ちました。最新版のVer. 2. 3では、初版から改訂されていない箇所の総点検を行い、時代に沿った記載内容へと刷新いたしました。

本技術文書をまとめるに当たり、日本輸血・細胞治療学会の委員会にJAHIS委員として参画し、諸先生方との議論を重ねたこと、またWG活動を通じて異なる立場のメンバーと多様な視点を取り入れたガイドづくりができたことは、私自身にとっても非常に貴重な経験となりました。

また、今般公表された厚生労働行政推進調査事業の研究成果である「輸血療法実践ガイド」において、検体照合や履歴管理、誤投与防止の観点から、本技術文書に準じたシステム化が推奨される旨が明記されました。本技術文書が医療機関の方々に広く理解され、安全な医療情報システムの構築運用に寄与することで、結果として医療事故やインシデントの撲滅につながれば幸いです。

奨励賞 医療システム部会	看護業務支援専門委員会 委員 (日本事務器㈱) ますやま ゆう き 増山 裕紀 
看護業務支援専門委員会への貢献	

受賞理由：

- ・2024年9月より、看護業務支援専門委員会に新規加入した。
- ・毎回欠かさず参加し、積極的な発言で議論を牽引しており、委員会への高い貢献度が認められる。
- ・医療機関での勤務経験と現在の電子カルテベンダーの職務経験から医療現場とシステム開発、双方の知見を委員会内で広めている。
- ・開発側の視点に偏らず、実際の医療現場の運用や課題に即した実用的かつ多角的な意見を継続して発信している。

これらの活動を通じて、当委員会の活動および看護業務支援の発展に大きく貢献しており、本賞に誠にふさわしいと考えた。

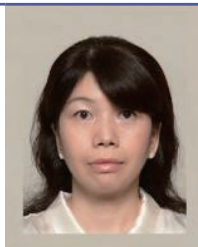
増山 裕紀さんのコメント：

この度は、2025年度定時社員総会におきまして、奨励賞という大変光栄な賞を賜り、誠にありがとうございます。

2024年9月に設立された当委員会へ初回から参加させていただき、看護業務を支援する各社製品・運用事例に関する情報共有や勉強会等を通じて、多くの学びを得てまいりました。医療機関での勤務経験と、現在の医療情報システムに携わる双方の立場から、看護業務における現場の課題や、システム開発・運用面での課題を委員会内で共有し、議論に参加できたことは、自身にとっても大変貴重な経験となりました。

医療現場を取り巻く環境では、様々な最先端技術の活用が始まりつつあります。看護業務の効率化や質の確保に向けて「医療現場に本当に求められる支援とは何か」を追求し、実現していくためには、JAHIS活動を通じた標準化の検討や、会員企業・関係団体の皆様との意見交換が非常に重要であると実感しております。

今回の受賞を励みに、今後も委員会活動を通して、看護業務の効率化および医療の質の確保に寄与できるよう、一層精進してまいります。

奨励賞 医療システム部会	看護業務支援専門委員会・ 看護情報WG 委員 (NECソリューションイノベータ㈱) おくだ まなみ 奥田 真奈美 
看護情報WG活動及び対外活動への貢献	

受賞理由：

2024年11月に看護業務支援専門委員会・看護情報WGに新規加入後、

- ・看護情報WGの「看護データセット適用ガイド」改版に途中より参加し、対象の技術文書および「ePath適用ガイド」を読込み、不明点はWGにて確認して、改版のための作業に意欲的に取り組んでいる。
- ・第26回 日本医療情報学会看護学術大会では、JAHIS派遣の実行委員のサポートをおこない、学会との協同に貢献した。
- ・MEDIS看護実践用語標準マスタのシステム利用において、業務経験をもとに看護師に寄り添った視点で新たな分類を提案し、9,500件を超えるマスタのシステム導入の障壁解消に尽力している。

奥田 真奈美さんのコメント：

この度は奨励賞を賜り、誠にありがとうございます。

今回の受賞は、看護情報WGでの活動を通じて、多くの皆様に支えていただいたおかげであり、心より感謝申し上げます。

看護情報WGでは、MEDIS看護実践用語標準マスタや看護データセット適用ガイドに関する検討、ePathとの整合性確認など、看護情報の標準化に向けた活動に携わってまいりました。

様々な背景を持つWGメンバーの皆様と議論を重ねる中で、これまで業務を通じて考えていた「標準化」とは異なる新たな視点を得ることができました。標準化そのものだけでなく、その先にあるデータ利活用や医療の質向上の可能性についても、多くの学びを得る機会となり、私にとって大変貴重な経験となりました。

また、活動や関係者の皆様との情報交換を通じて、標準化を進めていくうえでは技術面だけでなく、その意義やメリットを分かりやすくお伝えし、関係者の理解を深めていくことが大切であると感じております。

今後も、看護情報の標準化とデータ利活用の推進を通じて、医療DXや保健医療福祉分野の発展に、微力

ながら貢献していければと考えております。

最後になりますが、日頃よりご指導、ご支援をいただいている看護情報WGの皆様ならびに関係者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

功績賞	医療システム部会	部門システム委員会 内視鏡部門システム専門委員会 専門委員長 (オリンパスメディカルシステムズ(株))	
JED用語集のLOINCコード取得		おざき たかし 尾崎 孝史	
委員 (富士フイルム(株)) たつ た たけいち 龍田 岳一		委員 (日本電気(株)) だんばら かずゆき 檀原 一之	

受賞理由：

1. JAHIS内視鏡検査レポート構造化記述規約 Ver. 1. 0 (JAHIS標準21-002) に採用した、消化器内視鏡検査および診断に関する用語集「JED用語集」(日本消化器内視鏡学会 JED-Project) のうち、本標準で参照する用語について、国際コード体系の一つである LOINC にコード取得申請を行い、2026年2月24日リリースの LOINC Ver. 2. 82に正式登録された。登録されたLOINCコードは約230、Answer IDコード&Answer Listは約2, 000にのぼる。
2. 消化器内視鏡分野においてこれまで広く普及している国際コードは存在していなかった。国際的な用語集としてはMST (Minimal Standard Terminology) が存在するが、日本のJEDほど詳細に記述できるものではなく、内視鏡検査結果を用いた研究を一層進化/深化させるにはJED用語集が適している。内視鏡先進国である日本発で国際化していくことは有意義であり、今回の登録によって将来、国内標準と国際標準の整合性確保やJED用語集の普及に大きく寄与できると考える。
3. LOINC事務局 (Regenstrief Institute) への申請に際しては、JAHISに先行事例がなかったため、医療システム部会、国際標準化委員会、標準化推進部会などの協力を得て、JAHIS規程と不整合にならないよう手続きを進め、日本HL7協会に協力を依頼し、HL7協会のサポートのもとでコード取得を実現した。本活動は、着手から約3年半、HL7協会経由で申請が受理されてから丸3年を要した長期の取り組みである。当初、受理時には「平均約110日で登録される」との回答を得ていたものの、その後の進捗は停滞し、先方の状況に配慮しつつ丁寧なリマインドと状況確認を継続した。また、「申請内容を最大50件に分割してほしい」「内容分析のため複数の検査レポートを送付してほしい」など、先方から寄せられた追加要請にも迅速に対応した。さらに、担当者の交代や既存コード再整理のタイミングと重なるなど想定外の状況も発生したが、日本HL7協会 岡田美保子先生のご尽力・支援にも助けられ、最終的にLOINCコード登録という大きな成果を達成することができた。

尾崎 孝史さんのコメント：

このたびは、第16期定時社員総会におきまして、2025年度の「功績賞（連名）」を賜り、誠にありがとうございました。今回、JAHIS内視鏡検査レポート構造化記述規約に採用したJED用語集のLOINCコード取得にあたり、ご協力いただきました臨床の先生方ならびにJAHIS内外の関係者の皆様に、深く御礼申し上げます。

LOINCは、臨床検査や医療観察項目を標準化して識別するための国際的なコード体系の一つで、世界中で広く利用されています。これまで消化器内視鏡分野には広く普及した国際コードは存在していませんでした。

LOINCへの申請は、JAHISに先行事例がなく、また今回はLOINCコードに加えてAnswer IDおよびAnswer Listの申請も必要であったため、多大な時間と労力を要しました。根気強く対応した結果、最終的に約230件のLOINCコードと、約2,000件にのぼるAnswer IDおよびAnswer Listを登録いただくことができました。

本活動は、内視鏡先進国である日本から国際化を推進する有意義な標準化の取り組みであり、今回の成果は今後の内視鏡学の発展にも寄与するものと考えております。

今後も関係各位のご指導ご支援を賜りながら、内視鏡分野の標準化の普及・拡大に貢献できるよう取り組んでゆく所存です。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

龍田 岳一さんのコメント：

このたびJED用語のLOINC化の活動に対し、JAHIS「功績賞（連名）」を賜り、誠にありがとうございました。

内視鏡部門システム専門委員会では、2021年に「JAHIS内視鏡検査レポート構造化記述規約」を制定しました。日本消化器内視鏡学会の「JED用語集」を取り込んだものの、当時は暫定的にJAHISで採番せざるを得ず、国際的に通用する共通コードの取得は課題となっていました。このたび、ようやくLOINCコードとして正式に収載されるに至りました。

膨大な規模の用語集の整理・確認などの技術的作業をともに粘り強く進めてきた内視鏡部門システム専門委員会の作業メンバー各位に、まず心より御礼申し上げます。また、JAHIS内での手続きや、日本の窓口となる日本HL7協会を介した申請、申請後の各種対応など、各段階においてJAHIS内外の多くの方々にご協力を賜りましたことにつき、関係者の皆さまに改めて御礼申し上げます。

なお、本年より専門委員長は尾崎氏へ引き継ぎました。標準化活動は今後さらに力強く推進されるものと確信しております。引き続き、皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

檀原 一之さんのコメント：

このたびは、功績賞という荣誉ある表彰を賜り、大変光栄に存じます。

本活動は、JAHISにおいて前例のない取り組みであり、社内外の多くの関係者のご協力なくしては実現できないものでした。

特に、LOINC事務局とのやり取りが停滞していた時期の、岡田美保子先生の多大なるご尽力に深く感謝申し上げます。

LOINCコード取得までに、想定を超える期間と困難を伴いましたが、関係各位と粘り強く連携し、着実に課

題を解決していくことの重要性を改めて実感いたしました。

また、海外標準化団体とのコミュニケーションにおいては、相手の状況を尊重しつつ継続的に働きかける姿勢が成果につながることを学びました。

今後は、本成果を起点として、医療情報の標準化・国際連携のさらなる推進に貢献するとともに、後進の方々にとって有用な知見として還元してまいりたいと考えております。

功績賞 医療システム部会 JAHIS標準 25-001「JAHISヘルスケア分野における監査証跡のメッセージ標準規約 Ver.2.2」の改定等	セキュリティ委員会 監査証跡WGリーダー (株)島津製作所 にしだ しんいちろう 西田 慎一郎 
---	--

受賞理由：

1. 件名の改定作業を完遂し出版した。
2. 監査証跡 WGリーダーとして適切な会議運営を実施し、円滑な活動を主導した。
3. 改定されたJAHIS標準をベースとしてISO27789（EHRの監査証跡）の改定についてPLとして主体的に関与し、DIS投票にむけた作業を実施した。
4. ISO/TS11633-1（リモートサービスセキュリティ）の改定作業においてPLとしてCDを作成した。

功績賞 医療システム部会 JAHIS標準 25-003「リモートサービス セキュリティガイドライン Ver.5.0」の改定等	セキュリティ委員会 JAHIS/JIRA合同リモートサービス セキュリティWGリーダー (サイバートラスト(株)) まつもと よしかず 松本 義和 
--	--

受賞理由：

1. 件名の改定作業を完遂し出版した。
2. RSS-WGリーダーとして三つのJAHIS標準類の改定にあたり、適切なWG運営を行い、円滑に改定作業を実施した。
3. ISO/TS11633-1（リモートサービスセキュリティ）の改定作業においてPLと連携してCD作成に協力した。

松本 義和さんのコメント：

この度は2025年度の功績賞をいただき、誠にありがとうございます。JAHIS標準「リモートサービスセキュリティガイドライン Ver. 5. 0」の作成に関わるWGメンバーの多大なご協力があったの表彰であり、2期連続の受賞にあたりWGメンバー並びに関係者に深く感謝申し上げます。

最新の Ver. 5. 0では「リモートサービスのライフサイクルにおける義務と責務」というパラグラフを追加い

たしました。医療機関等へ適切な情報提供をSLAやSDSで行うことの重要性や、医療機関との合意形成における情報セキュリティ上の留意点をまとめています。

これまでに本ガイドラインは、医療システム等に対するリスクアセスメントの手法を解説していることから、審査支払基金、医政局、消防庁など多くの機関で活用いただいております。また、最新の安全管理ガイドラインでも参照ドキュメントとしてポイントされました。これからも引き続き、リモートサービスの不備に起因するセキュリティ事故を根絶するためにも、このJAHIS標準の普及・啓発活動に努めていく所存です。

功績賞 医療システム部会	相互運用性委員会 病名情報メッセージ交換標準化WG リーダ (日本アイ・ビー・エム(株)) きむら まさひこ 木村 雅彦 			
病名情報データ交換規約Ver.3.2Cの制定	病名情報メッセージ交換標準化WG 委員 ((株)ソフトウェア・サービス) にしぐち たかゆき 西口 貴之	病名情報メッセージ交換標準化WG 委員 ((株)ソフトウェア・サービス) にしむら としあき 西村 俊亮	病名情報メッセージ交換標準化WG 委員 (日本電気(株)) こまい まさひろ 駒井 理弘	病名情報メッセージ交換標準化WG 委員 (日本電気(株)) いのうえ まゆみ 井上 真由美

受賞理由：

病名情報データ交換規約 Ver.3.2Cを制定した。

このJAHISデータ交換規約は、参考情報ではあるものの、FHIRを使用した各種診療データの照会について解説した初めてのJAHIS標準類であり、今後のデータ交換規約の方向性を示す記念となるものである。

木村 雅彦さんのコメント：

この度は、「JAHIS病名情報データ交換規約 Ver.3.2C」の策定において、功績賞グループ表彰を賜りまして誠にありがとうございました。WGメンバーを代表して御礼申し上げます。

今回の改版では、HL7 FHIRなどの国内外の標準化の流れやJAHISデータ交換規約全体での最近の取り組みを踏まえ、JAHISデータ交換規約（共通編）の最新版（Ver.1.3）の参照、日本HL7協会から公開されているHL7 V2.5日本語訳見直し版に沿った日本語訳の見直し、コード表へのOIDの付番、適合性宣言書の採用のほか、付録での参考情報ではありますが、JAHISデータ交換規約において初めてHL7 FHIRにより患者基本情報、感染症、血液型、アレルギー、入退院歴、受診歴、病名情報の照会を行う際の仕様案やメッセージ例等の記述を追加しました。また、今回新たなWGメンバーを迎え、一緒にデータ交換規約の策定作業を経験することにより、若い世代への標準類策定のスキルと経験の伝承が少しは行えたのかなと自負しております。最後に、今回の表彰は、WGメンバー全員の努力の賜物に他なりません。この場をお借りして深く感謝申し上げます。今後ともJAHIS活動に積極的に関わり、医療情報の標準化と普及推進に貢献する所存です。

奨励賞 標準化推進部会	普及推進委員会 委員 (富士通Japan(株)) おかだ はるな 岡田 春奈
教育事業の講師対応および 標準類オーバービューチャートのアップデート作業 への貢献	

受賞理由：

1. JAHIS教育事業「医療情報システム入門コース」の講師対応
普及推進委員会にて対応を行っている「医療情報システムの標準化について」の単位において、教材の整備・作成および講師を担当し、JAHIS教育事業に貢献、人材育成に寄与した。
2. 標準類オーバービューチャート（OVC）のアップデート作業への貢献
普及推進委員会の重点活動領域であるOVCのアップデートにおいて、厚労省標準およびJAHIS標準類の改定内容の確認を行うとともに、新たな標準類のOVCへの反映を検討するにあたっての各標準類へのマッピング、デザイン検討を率先して実行した。（OVCのアップデート版は2026年5月に公開）
これらの活動は、普及推進委員会の活動・成果に大きく貢献するものである。

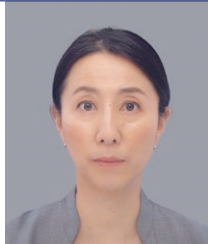
岡田 春奈さんのコメント：

このたびはこのような賞を賜り、大変光栄に存じます。

本取組は、委員会の皆様をはじめ多くの方々のご支援によるものと深く感謝しております。参加当初は右も左も分からない状態でしたが、皆様のご指導のもと取り組むことができました。

担当させていただいた「医療情報システムの標準化について」の講義が、医療業界の抱える課題や標準化の重要性に対する理解を深めていただく一助となっていれば幸いです。

また、アップデートされたOVCが広く活用されることを期待しております。

奨励賞 標準化推進部会	国際標準化委員会 委員 (大日本印刷(株)) たていし きよこ 立石 貴代子 
JAHIS国際活動活性化への貢献 (DICOM,RSNAへの積極的な参画と情報共有)	

受賞理由：

2025年4月に国際標準化委員会委員として登録後、1年足らずの短期間で国際標準化活動の最前線に立ち、JAHISの国際的プレゼンス向上に大きく貢献した。具体的には、以下の国際会議に参画し、対面・オンラインを問わず継続的な活動を行い、報告書を発行して情報共有を行った。

2025年5月：DICOM Standard Committee (DSC) イタリア・ベローナ（対面参加）,2025年9月：DSC マレーシア・クアラルンプール（Web参加）,2025年11月：RSNA、DSC 米国・シカゴ（対面参加）,2026年3月：DSC チェコ・プラハ（対面参加）

これらの活動を通じ、国際議論の場において日本およびJAHISの立場を的確に発信し、存在感を示した。

また、DICOM活動においては、CPack131, 132, 133, 134, 135, Supplement246, 247, 249といった重要案件について、JAHIS内の意見集約を主導し、関連団体との調整を行ったうえで国際投票に反映させるなど、実務面でも中心的役割を果たした。

国際標準化活動開始から3年以内という奨励賞の趣旨に合致し、短期間で成果を示した点、ならびに今後の継続的な国際貢献が強く期待される人材であることから、本奨励賞にふさわしいと考える。

立石 貴代子さんのコメント：

この度は、奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。

国際標準化委員会の活動に参加してまだ日が浅い中、このような評価をいただき、大変光栄に存じます。

今回の受賞は、DICOM WGの皆様とともに取り組んできた活動を評価していただいたものと受け止めております。

国際標準化活動に取り組むにあたり、国際標準化委員会には国際会議への参加機会をはじめ、活動を支える環境を整えていただきました。また、DICOMの標準化活動は、多くのメンバーの知識や経験、そして継続的な協力によって支えられています。私自身も、WGメンバーの皆様から多くの助言やご協力をいただきながら活動を進めることができました。国際会議への参加や国際投票への対応など、日々の活動を積み重ねることができたのも、委員会およびWGメンバーの皆様の支えがあったからこそだと感じております。

今回の表彰は、そのような皆様とともに積み重ねてきた活動の成果として受け止めております。この場をお借りして、国際標準化委員会ならびにDICOM WGの皆様にご心より感謝申し上げます。

今後も国際標準化活動を通じて、JAHISおよび医療情報分野の発展に微力ながら貢献できるよう努めてまいります。

この度は誠にありがとうございました。

功績賞	保健福祉システム部会	健康支援システム委員会 委員長 WGリーダー (株)NTTデータ いのうえ ひろゆき 井上 裕之 	
健康診断結果報告書規格 Ver.3.0の制定		健康支援システム委員会 副委員長 (オムロンヘルスケア(株)) かづま ひろゆき 鹿妻 洋之 健康支援システム委員会 委員 (日本事務器(株)) たつざわ けんじ 立沢 研二	

受賞理由：

1. JAHIS-日本HL7協会合同健康診断結果報告書規格WGにおいて改訂作業を行い、2026年3月に「健康診断結果報告書規格 Ver.3.0」を制定した。改訂に際しては、国が定めた第4期特定健診の「特定健診・特定保健指導の電子的なデータ標準様式 Version4」における変更点の反映を行い、最新の制度で実施される特定健診への対応を行った。

2. 本規格は日本医療情報学会が定める「健康診断結果報告書HL7FHIR記述仕様」においても本規格を参考にしてFHIRに準拠した記述仕様を作成したとされており、国内の健康診断結果報告様式の標準化において、本規格の適切なメンテナンスは有意義な活動となる。
3. 改訂作業は日本HL7協会との合同WGで実施した。JAHISが中心となって双方の意見の取りまとめを行い、円滑にWG運営を行いつつ、適切な改訂を行った。

井上 裕之さんのコメント：

この度は、定時社員総会におきまして功績賞を賜り、誠にありがとうございます。日頃よりご協力いただいております委員会の皆様、ならびに選考に携わられた皆様に、心より御礼申し上げます。

今回は、日本HL7協会との合同WGにおいて、「健康診断結果報告書規格 Ver.3.0」の改訂に携わりました。本規格は、厚生労働省が定める「特定健診情報ファイル仕様」をベースに、HL7 CDAに基づく表現拡張やコード体系の再定義を行うことで、人間ドックや特殊健診を含む幅広い健康診断に対応した標準仕様です。今回の改訂を通じて、国内における健康診断結果報告様式の標準化に微力ながら貢献できたことを、大変光栄に思っております。

また、本規格は「健康診断結果報告書 HL7 FHIR記述仕様」の策定においても参考とされており、こうした標準化活動が医療情報連携のさらなる発展につながることを期待しております。

今後も、微力ではございますが、業界の発展と標準化の推進に貢献できるよう努めてまいります。引き続き、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

功績賞	事業推進部	事業企画委員会 委員長 (キヤノンメディカルシステムズ(株)) き ど す み こ 木戸 須美子	
書籍『医療情報システム入門』の改訂・販売促進		事業企画委員会 副委員長 (コニカミノルタ(株)) お が わ ゆ う だ い 小川 雄代	

受賞理由：

1. 3年ぶりのJAHIS書籍「医療情報システム入門」の改訂（前版は2023年2月24日発刊）において、執筆者である各委員会の方々との調整、出版元である社会保険研究所との調整、親しみやすい表紙デザインの検討、出版に向けた最終チェックを行い、「医療情報システム入門第8版（以下、書籍8版）」を2026年1月16日に発刊した。

書籍8版の巻頭言はJAMI代表理事の横井先生に執筆頂いた。発刊後は、厚労省幹部等への献本を行

い高い評価を得ている。書籍8版の発行を通じて、関連省庁や学会に対するJAHISのプレゼンス向上に貢献した。

2. 前版である「医療情報システム入門2023（以下、書籍2023）」は、積極的なプロモーション活動（学会・展示会でのPR、入門コース副読本化、教育機関向けDM発送等）により、実売 5,180部 を達成した（前々版は、4,093部）。

書籍2023は、大学等より学生向けに一括購入して頂いた。また某地区の医療情報技師会では、医療情報技師を受検する方へ、JAMIテキストの副読本として推奨している。病院の情報システム部門の管理職が、入職した職員に購入を勧めている施設がある。書籍2023は、JAHIS会員企業等のベンダの枠を超え、学生や医療機関の若手職員に対するJAHIS認知度向上に寄与した。

受賞者連名のコメント：

この度は、功績賞を賜り、誠にありがとうございました。今回の表彰は、事業企画委員会で取り組んでまいりましたJAHIS書籍『医療情報システム入門』の約3年ぶりとなる改訂版『第8版』（2026年1月16日発刊）の刊行ならびに販売促進活動をご評価いただいたものと受け止めております。本書籍の各単元をご執筆いただいた関係委員会の皆さま、また日頃より活動を支えてくださっている事務局の皆さまに、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

書籍の発刊に向けては、2025年3月より出版元である（株）社会保険研究所の皆さまと定期的に検討会を重ねてまいりました。特に表紙デザインについては、初版からの変遷を振り返りながら、改訂版として「わかりやすさ」と「親しみやすさ」を兼ね備えたデザインを検討しました。また、プロモーション活動としては、2026年1月のJAHIS賀詞交換会においてポスターやチラシを作成し、「最新刊」として積極的なPRを行いました。

本書籍は累計販売部数2万冊を超え、医療情報システムを学ぶ教育機関においても教材として採用いただいております。今年度もさまざまな機会を通じて本書籍のプロモーションを行い、より多くの方々にJAHISの名前と共に書籍の価値を知っていただけるよう努めてまいります。